コムギ赤かび病の発生に注意！適期収穫に努めましょう

[現在の状況]

赤かび病の原因となる赤かび病菌の子のう胞子は、気温が高く、曇雨天の日に飛散する。本年は、5月6日～5月13日にかけて県内の多くの地点で赤かび病菌の孢子飛散好適条件が連続して出現した。また、5月17日以降も多く出現しており、本病の感染が拡大しているおそれがある。

表 赤かび病菌の子のう孢子飛散好適条件の出現状況

	アメダス地点	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26
県北	日立	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
	常陸大宮					●	●	●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●
県央	水戸	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●
	笠間	●	●		●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
鹿行	鉾田	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
	土浦	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
県南	龍ヶ崎	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
	つくば	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
県西	下館	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
	下妻	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
	古河	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●			●	●	●	●

●：子のう胞子の飛散好適日

(日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、降雨日とその翌日)

[収穫期以降の対策]

- ① 収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がるおそれがあるため、適期収穫に努める。また、圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり、感染が広がっているおそれがあるため、その部分は刈り分けて処分する。
- ② 収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。
- ③ コムギでは、グレーダーによる粒厚選別(2.4mm以上)等は被害粒の除去に有効である。